

# 実践記録

## 169

### シリーズ

## 『主催事業:チャレンジわんぱく』 ～自然体験活動を通して、真にたくましい子どもたちを育む～

新潟県少年自然の家 副参事 梁川一十男

### ◇はじめに

「わんぱくでもいい、たくましく育てほしい」とは、70年代に流れた某食品会社のCMです。

しかし、この言葉に込められた願いは、子どもたちを取巻く様々な環境の変化から、近年ますます意義を増してきたのではないのでしょうか。

### ◇自然を相手に3回のチャレンジで心身を鍛える

県少年自然の家では、当所をベースに地域の活動スポットを加え、小学4～6年生を対象として、主催事業『チャレンジわんぱく』を行っています。

年3回シリーズのこの事業は、自然体験を通して子どもたちの身体的なたくましさだけでなく、何事にも挑戦する気持ちや他を思いやる心、集団生活でのルールやマナーに対する意識の高揚を主なねらいとしています。

次に、それぞれの回の様子についてご紹介します。

### 夏：ファーストチャレンジは海をめざして

夏休み、県下各地の小学校から集まった子どもたちは、最初少し緊張気味です。しかし、アウトドアクッキングやキャンプファイア



等、活動を通して次第に打解け、グループごとにテントで就寝する頃には、みんなすっかり仲良しになっていました。

次の日は、メインイベントのカヌー体験。パドル練習から川に漕ぎ出すあたりはおっかなびっくりですが、それもすぐに慣れ、日本海のうねりをもともせず、思いっきりカヌー活動を楽しみました。

### 秋：セカンドチャレンジは山のいただきへ

10月上旬の週末に行われた2回目は、自分の手でおやつを作るバームクーヘン作りからスタートです。敷地内で切り出した竹を必要な大きさや形状に細工し、ホットケーキの素を何度も重ね塗りして焼

きあげました。

「本当にこれでバームクーヘンができるの?」と、最初は半信半疑だった子どもたちも、すばらしい出来栄えに感嘆の声をあげていました。そんな中、「お土産に持って帰って家のみんなに食べさせたい。」という子どもたちの声を聞き、とてもうれしい気持ちになりました。

次の日は、メインチャレンジの大峰山登山です。日本一小さな櫛形山脈に属するこの山は、標高399.5mですが見晴らしもよく、山頂で食べたおにぎりのおいしさに、みんな思わず舌鼓を打っていました。

### 冬：ラストチャレンジは雪と友だちに

年が明けた1月半ば、最後の挑戦にわんぱくチャレンジャーが集まりました。どんど焼きや餅つきを体験して日本の伝統的文化に触れ、2日目は胎内スキー場で、思いっきりスキーを楽しみました。



子どもたちの半数以上がスキー初体験でしたが、地域のスキークラブの協力を得て少人数指導を行い、終了する頃にはみんな自信たっぷりに斜面を滑り降りていました。

### ◇終わりに

3回を通して一番多い子どもたちの感想は、「最初不安だったけど、みんなとすぐに仲良くなれてよかった。」「違う学校の友だちがたくさんできた。」ということです。知らない者同士がコミュニケーションを通して人間関係を深め、集団宿泊体験からマナーやルールの大切さに気付いて社会性を身に付ける。

これからの社会を担う子どもたちにとって大切な経験が、この主催事業には凝縮されていると自負しています。